

下肢静脈瘤

足のむくみ、だるさ、目立つ血管が気になる人は要注意！



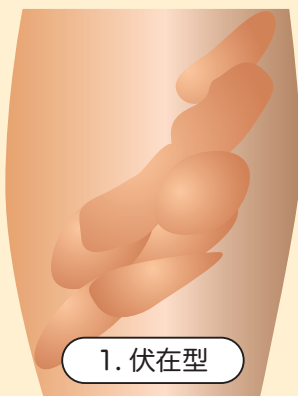
外科 部長
北川 剛
[専門領域]
血管外科 消化器外科 外科一般
[主な資格]
日本外科学会 専門医
日本脈管学会 専門医

下肢静脈瘤は鼠径部や膝裏の静脈弁が壊れて静脈血が逆流し静脈が拡張する病気です。美容的に目立つというのが主な問題で無症状の方もいますが、人によってはむくみ、あしのだるさ、痛みを伴ったり、夜寝ていて足がつるなどの症状を伴う場合があります。さらに内側の足関節のやや上のあたりや静脈瘤の上の皮膚などにうっ滞性皮膚炎を起こす場合があります。かゆみ、色素沈着、さらに悪化すると潰瘍が出現する場

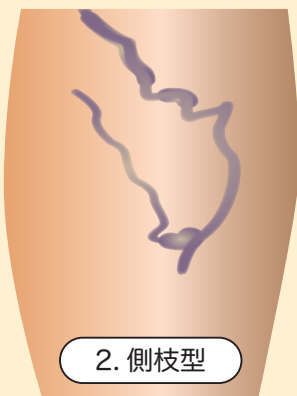
合もあります。

基本的には命に関わる、あるいは手遅れになるというような病気ではありませんが、年齢とともに少しずつ悪化します。きわめてまれに血栓を伴う場合があり、足全体が腫れて痛みを伴う場合だけは肺塞栓という命に関わりうる病気を併発することがありますのでできるだけ早く受診することが必要です。

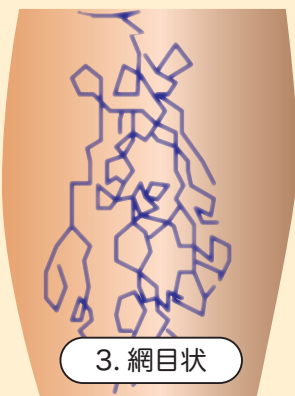
■下肢静脈瘤とは？ 静脈血管内の弁が壊れ血液が逆流し脚の静脈が瘤(こぶ)のように拡張したものです。



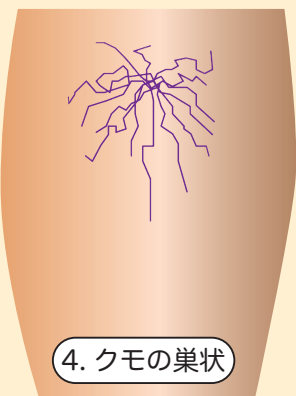
1. 伏在型



2. 側枝型



3. 網目状



4. クモの巣状

■症状は？

- 足がだるい、痛む
- 足がつる、こむら返り
- 足がかゆい、湿疹
- 足の潰瘍、色素沈着

血管が浮き出ているだけで無症状です

足がつるんです
(こむら返り)



足がむくみます
(静脈瘤が出ている足)

■なりやすい人は？

- 出産経験のある方
- 立ち仕事に従事している方
- 高齢の方(加齢と共に発生頻度増加)
- 血縁に静脈瘤のある方

足がだるくて、重いし、
疲れやすいです
(長時間立っていると出やすい)

静脈瘤には、1.伏在静脈瘤、2.側枝静脈瘤、3.網目状静脈瘤、4.クモの巣状静脈瘤に分類され、それぞれに適した治療法を選択する必要があります。一般に手術が必要となるのは1の伏在静脈瘤ですが、1の伏在静脈瘤、2の側枝静脈瘤の診断のためには超音波検査が必要です。3.網目状静脈瘤と4.クモの巣状静脈瘤は美容的に目立つこと以外に症状が出現することはありません。

■下肢静脈瘤の治療法

●圧迫療法

医療用弾性ストッキング等で足を圧迫し静脈の逆流を防ぐ方法です。非常に有効ですが、普通のストッキングよりかなりきついこと、夏暑くてはけないなどの問題があります。

●硬化療法

静脈瘤内に直接血管を固める液を注射し、圧迫することにより血管内壁同士をくっつけて目立たなくする治療です。

●ストリッピング

鼠径部と膝周囲の小切開口から静脈瘤をおこしている血管

全体を引き抜く治療です。最近の術前検査法、麻酔の進歩に伴い術直後の痛みも軽減され傷も鼠径部が3cm前後、膝下が1cm前後と小さい傷で治療できるようになりました。

●血管内治療

ストリッピングのかわりに血管内にカテーテルを入れて中からレーザー、高周波などで血管を焼いて閉塞させる治療です。鼠径部に傷がつかないことが長所ですが治療後の深部静脈血栓症の発症に注意が必要なこと、新しい治療なので長期の成績が不明であることなどが問題です。膝下の静脈瘤が目立つ場合は追加で切除か硬化療法が必要になります。

このように、ひとくちに静脈瘤といっても様々なタイプ、治療法があります。静脈瘤のタイプ、患者さんの状態、ご希望などを考慮しながら一緒に治療方針を決定しています。

静脈瘤が気になる方は、お気軽にご相談ください。